

婦人科における理学療法

Physiotherapy in Gynaecology

J. B. Cochrane, F.R.C.O.G.

(Physiotherapy : Vol 53, No 6, 194. 1967)

今日の産婦人科における PT は、30 年前に始められた時と様相を一変した。すなわちホルモンの発達による無月経、月経困難症、更年期障害、抗生物質による婦人性器の炎症のコントロールには、もはや PT の必要度は少なくなった。

PT が効果あると思われるのは、骨盤床の筋肉の障害による臓器の位置異常による機能不全である。すなわち、腔、子宮脱、子宮後傾屈、排尿障害、Coitus の障害に対して行なわれる。肥満、便秘、激しい咳による腔、子宮脱を元にもどすことは患者の生活動作の障害を軽減し、これには手術よりも骨盤運動を主とした PT が用いられ、また有効である。運動療法だけで十分でない少数例には感応電流を加える。子宮の後傾屈に PT はドラマチックな効果は少ないが症状的によくなることが多い。もう固定してはむずかしいが、可動性であれば医師により、用手またはベッサリーにより修復され、その後骨盤床運動を行なう。ベッサリーは 4~6 週入れておくので、この間患者に十分運動するよう指示する。ベッサリー抜去後は体位運動も大切である。排尿障害が膀胱脱、腔膀胱ヘルニアのため起こっている場合は、骨盤底運動が効果あり、その適応は膀胱造影によって決められる。出産による腔の拡大が、会陰および腔口の各筋肉の弛緩による場合に不満足な Coitus をみせることがある。これには骨盤運動に感応電流を加え、各筋力を元へもどす。

婦人科の手術は下腹部切開で行なわれるが、上腹部にもおよぶことがあるので、手術後は一般外科の時と同じく呼吸練習は必ず手術翌日から行なう。また静脈血栓の予防には他動から始める四肢の運動が大切である。骨盤内臓器の炎症の治療には、現在抗生物質が主として用いられるが、急性期を過ぎた後に短波ジアテルミーを与えると患部組織への血流が増し、薬剤が患部へよりよく到達するようになり効果的である。

情緒障害児の治療としての劇

Dramatic Work as Therapy for Emotionally Disturbed Children

Ann Stewort, M.A.O.T.

(Occupational Therapy : Vol 30, No 5, 25. 1967)

St. Thomas' Hospital (ロンドン) で情緒障害児のグループ治療に使われた多くの芸術的な方法は、1963 年 12 月号の "Occupational therapy" に Mrs. Young によって紹介され、その後 OT によって続けられ、その価値は認められてきた。基本的な目的は、多種の芸術的な方法を通して子供達に生き生きとした創造的な経験を与えることであった。何を強調して取扱うかは、OT の趣味により異なっていた。

著者は、劇 (dramatic work) にあられる多くの表現を使用することが、情緒障害児を扱うのに最もよくあてはまる治療方法であることを見出した。劇は 6~9 歳の 7~8 名のグループを 2 つ、10~14 歳の 9~10 名のグループを 1 つ作り、毎週精神科医より処方され、60~90 分行なった。子供の大多数は神経症による社会的、または学習困難者であった。幼児の情緒経験から、成熟期への移行に失敗した子供や、自発性を示すことのできない子供達へ、ドラマは治療方法としてあらゆる機能を果たした。彼らが何かを知っているのだと感じた時に、安定感や自己尊重が見られ、詩や歌などをくり返しやることを喜びとしていた。

物語を演じることは共同作業における社会性をもたらすだけでなく、役割りの選択により個々の治療をすることもできた。童話を利用した理由は、人間の困難や努力の真髓が書いてあるからである。これらの姿は子供達が戦わなければならない物に似ている。物語を読むことによって、機械的になったり、強い印象を与えなかったりして退屈させてしまうのを防ぐために語られた。語ることに子供達のニードをつかみ、また登場人物へのより大きな同情を生み出させることもできた。

役割りを自力で選ばせることは、子供達に合法的な場において普通は受け入れられない行動を示す機会を与え、また何が原因となって情緒障害児になったかを見きわめることができた。情緒障害児は彼ら自身を自然に表現する機会を失ってきたのである。